

第8回ヘンデル・フェスティバル・ジャパン

企画2 《エイシスとガラテア》

CD評 (田中成和氏)

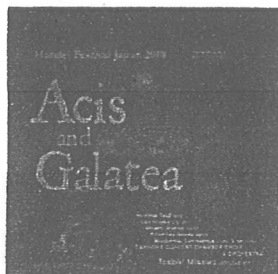
『CD ジャーナル』2011年7月号

三澤寿喜指揮キャノンズ・コンサートco&室内cho 他

ヘンデル：エイシスとガラテア

KK・HFJ/HFJCD-1001~2 オープン価格 [6.20]

Classic



●ヘンデル：①エイシスとガラテアHWV49a
/演奏：三澤寿喜指揮キャノンズ・コンサート室内管弦楽団、キャノンズ・コンサート室内合唱団、辻裕久、前田ヒロミツ(T)広瀬奈緒(S) 牧野正人(Bs) / 録音：2011年1月13日 東京「浜離宮朝日ホール」

☑ ヘンデル傑作群のエッセンスが凝縮

数多あるヘンデル作品中で作曲家の生前に70回を超す上演を記録したヒット作、マスク(仮面劇)『エイシスとガラテア』は、のちの傑作群のエッセンスが凝縮された、いわば“ヘンデル・パイロット”。パトロンのひとり、キャノンズにおける私的演奏会を想定してコンパクトな規模に収められていることも利して、古楽器演奏復興の初期から数々の演奏・録音が試みられてきた。そして、ガーディナー、クリスティらの名盤が覇を競う中に意義あるディスクが加わった。我が国を代表するヘンデル学者、三澤寿喜を中心に“研究と演奏の理想的な一体化”を掲げて2003年に活動開始したヘンデル・フェスティバル・ジャパン(HFJ)、その第8回演奏会のライブ録音で、その名もキャノンズ・コンサートのオケと合唱を中心に、すべてが邦人演奏家による珠玉の演奏だ。初演版『エイシス〜』で旗揚げしたHFJが、実行委員長三澤の指揮による劇場版でヘンデルの“英国音楽”の真髓に迫る。(田中成和)